p め咲

木曜日

論説

歴

史

を 償

う

も 0

毎月発像

定価

本 福岡支社

社

宗

像

0

春

ま

つ

1

社会

神具、

装

東

会株社式

井

像 会 福岡県宗康郡玄海町 電 話 神美 133 番 一年送料共 500円

結婚式場用品

に一民族一国家が生存する周辺事情は、自らの

栄も考えられない。そんな者は青年ではない そこには一身はもとより、国家社会の平和も繁 まれるか。明日に希望なき青年は死者だ。 も否定するだろう。否定の明日に何の希望が生 倒の青年に、こう答えたと語っていた。

は最善の道を選んだと考えたにちがいない。殊 然し、その多くは結果論で、時の国民当事者

**過誤**や失敗の外に、外部に思わぬ。事態が発生

危険な動向を迫られることもあろう。

大戦当時既に成人で

ると、前時代の過誤や失敗を、次代に青年がこ

青年だけが償うのではない。

指導者も

般村

東西の史書が編んだ数々の興亡の跡を考察す

昭和44年5月1日

多大の苦悩を残した例は少くない。後世史家の

痛烈な批判を浴びる過霞や、非難の鞭に打たれ 方針が意外の結果をひき起し、次代を継ぐ者に に、或は民族の危機を救っために、取った施策

る失敗も数えきれまい。

長い歴史の中の短い一時期を生きた民衆、特 どんな国家にも、治乱興亡の時代経過がある。

古今の史書が物語るように、いづれの民族

にその指導者が、積極的に国家の繁栄のため

我々は被害者だと。

或る国立病院の院長は、反挠過剰、否定一辺 「今日を否定し昨日を否定する者は、明日を

今日の社会事情を嘆く前に、老人は反省せよ。 であったり戦後に生まれた我等に責任はない。 **責任を、難詰する青年がある。日く、当時幼少** あった人々に、戦争突入を避けず敗北に終った

### 月 祈 h 五 0

く境内

祈りても験しなきこそしるしなれ 祈る心にまことなければ

の振舞いは、皆神仏に背きながら、 自らを律し慾心のない祈りの上に神は加護を垂 外には悪行のみして流石に福分も願はしく寿命 叶はぬとて、恨み奉るはひが事なり。 も長らへたきままに、神仏に祷る。斯様の心に ては、いかでか祈りのしるしもあるべき。朝夕 今時の人を見るに、朝夕内には悪念を貯へ、 祷ることの 窓国師 る。当大社春季大祭はまず三月三

宗像の春はまつりと共に訪れ一るものである。氏名を呼ばれた表

一彰者が次々に表彰状を手にする。

育てたその手でしっかと握りしめ

神賑

行事も盛大に

多数の遺族が参列した。

英鑑のみ魂安かれと春祭が行われ 光に包まれた宗像護国神社に於て

また此の日、午前十一時より春

宮に鎮り坐す神霊に春祭の奉告を一に主基地方に指定された記念の回 がとどこおりなく行われるよう一が行われた。 に祈念をする。次いで高宮祭、高 大地主神に、明日から始まる大祭一る。次に風俗舞永年奉仕者表彰式 | 日午後五時の地主祭から始ま | 厳寒の海で早春の潮で若布を慈み

がえしてわたって行く。 春季大祭が厳かに斎行された。春 午前十時、保存会の伝統を有する一経てきている。それを今日にまで 風が纓をそよがし舞姫の袂をひる 祭が行われた。明けて四月一日 暮色が田島の神奈備を被う頃、 五穀の豊穣を始め萬の産業賑ひ 宵 に至った。その間には未曽有の 存続させた力は何か、ただ神郡宗 像に生を享けたものの誇りと使命 大戦、敗戦による困乱時代を 俗舞も、約半世紀の歴史を有する

完え、二つの表彰式が行われた。 正した奉幣使が郡中の熱涛を捧げ 幣詞の奏上が行われる。衣冠を たあと、風俗舞、浦安舞の奉納を 斎主の祝詞が完り、氏子会より奉 へ奉らしめ給へと恐み恐みも日 て来む秋の大御祭厳しく美しく仕

鷹された功労者に対して 行われ つは献上若布功労者表彰式 毎年この祭に各漁協から推

貴重な教訓として、国家を再建し更に国運を開 く努力を傾注しているのである。 れを償うている。つまり次代の国民が、前轍を

満喫されるだろうか。 それでほんとうに平和が周囲を包み、幸福感が 自己の幸福だけ考えれば、それでよいのだと、 エゴイズムに陥りマイホーム主義に捕われて、 何十年、或は何百年近隣の河流に変動なく耕 自分らの責任でないから知らない。自分らは 乱と窮乏の中に目標を失い、 た。然し、一部の革命主義の先生達は論外とし を教育したのは教組だ、との攻撃の文字があっ つ。終戦後は学校だけではなく国民自体が、 て、教育者全般を非難する態度には疑問を持 この頃、街角のポスターに、今日の暴動学生

ず、困惑は深刻の度を加える外はない。 責任やら、決潰した堤防も水没の 水田も 復旧は 排らら、決潰した堤防も水没の 水田も 復旧は 排ら 作を続けてきた村落も、時に予測しない豪雨の ければなるまい。そうしなければ村落は敷われ 過顆を追及する前に、先ず起って損傷を直さな を没して、飢餓を招いた例もある。その時若者 幸福も帰らない 時に村民の処置の割りが円 ある。

すべきこと勿論である。

窮極は国民自体が考えなければならない問題で は、真面目に教育を考えているし、学園騒動も ていたのである。今日もその当時も多数の教師

返って、 きる道を開いてゆかねばならない。努力の集積 ために事業不振を招き家運傾く場合がある。こ れない。応急の処理に家族全員が協力して、 んな非常の時、責任のぬすり合いや傍観は許さ が家運の復興を成し得た時は、その過程を振り 個人の家庭が、当主の経営よろしきを得ない 無理のあった点を反省し修正すべきで

筒 感と言っても過言ではなかろう。 翌二日は、大祭終了後、境内に

党の姿を目のあたりにする思いが は往古武名を海内に轟かせた宗像 人の剣士が裂帛の気合で闘うさま れた。参加チーム三十、百五十 於いて 恒例の 奉納 剣道大会が 行

とこおりなく無事終了した。 職員奉納)の諸行事もふくめ、 された春季大祭は、その間に献茶 (小方社中奉納) 献花 (大社女子 剣道優勝チーム かくして三日間にわたって流行 ح

少年の部 玄海小学校

昭和の大管祭(ダイジョウサイ)

一般の部 位 一 位 津屋崎小学校 名 弄組

豆豆 一位 玄海町 名 東福岡高校C В В

一、遊山、魚釣等を目的とし、釣 ます。 す。 が、宿泊、食事の御世話は致し 具等の持参は固く禁止致しま かねますので、各自御準備願い

記の上お申し込み下さい。 まで宗像大社々務本局儀式課宛 に住所、氏名、年令、職業を明 参拝御希望の方は五月十五日

、乗船者数に制限がありますの で、人員超過の際はお断り致し

ます。

民も、失敗の教訓を生かし、再建の努力を傾注 ある。

平和という文句だけを叫ぶ甘えた態度、それを のない破壊、昨日の良きものまで否定、そして る。その主役を果すものこそ青年である。意味 期の損失を償ってゆかなければならないのであ 共に繁栄への好闘が予測される。この時こそ前 **犠牲を払ったが、今や産業のめざましい進展と** | でないことになる。代償を考えな 争によって国運の衰退を見、有形無形に貴重な 米文明の行き詰りを批判している。わが国も戦 今日欧米を視察して帰国する識者は、よく欧 れば明日の国家の安泰と繁栄の方途は

社会情勢は悪化し

知る」とある。今日の老人は戦前戦後を通じ 「行年五十にして四十の非を 知 老

参

護祈念の現地大祭を斎行致しま 戦の戦勝記念日をトして、国家鎮 宗像大社沖津宮に於て、日本海々

斎行致します。 の沖ノ島に渡り、沖津宮で大祭を

街頭の片隅に海棠の花が、自然に

安保反対と安保強化の宣伝カー

上げますので、御希望の方はお申 但し、関係筋より日本海に於ける 込み下さい。

> 母を背負いてそのあまりー」の歌 まった若い二人は、花を見ながら 順応する姿を見せている。立ちど の喧騒も旗印も知らぬげに、銀座

唄の人の出立ち

田

熊

小野 角次郎

若き日の父の姿を見る如し酒造り

さい。 ありましたので予め御承知おき下 島中止も予想されるとの連絡が 国際状勢の状況によっては、渡

一、参拝者には沖津宮大祭奉賛費 の献納をお願い致します。 として一名につき一口千円以上

ともなる。

せし我のもどかしき夕餉 初物のつはの煮メロにあまり抜味

津屋崎 浜津

鴻浪

る劇評家が大女優の地位にある 料理は、ほんとうにおいしいもの 書いている。大女優自身は言う。 も欠かせないのは謙虚と熱意。或 人は、礼儀正しく謙虚であると られている。

〇どの道の修練に い家庭料理こそ、愛情の真価が語 一」と先生は説く。愛情の欠けた しさは、手先の技よりも愛情が第 ぶ肝腎な心得として「料理のおい 養の話のついでながら、料理を学 地も同じであろう。〇女性の教 の人生は解決しない。茶道の境 「引出しはからっぽにしたい。自 心よきかな春の風吹く 咲きそめし辛夷の花をふるはせて

見出せないのである。 改めなけ

人もまた現代の国家と共に生きている以上、 った多くの非を次代を背負う人達にアド て、多くの失敗や過誤を自ら経験している。 して、若さのみなぎる青年の活動に期待

沖津宮現地大祭 拝につい

す。 来る五月二十七日、沖ノ島鎮阪

毎年海上保安庁の御好意により巡 視船に便乗、海上四十九キロ彼方

本年も左記要項により御案内申し 啄木を話しているらしい「戯れに

が出た。啄木の痩せた母の軽きに 鴨に拘置された戦犯巨頭の一人が 〇極東軍事裁判にかけられて、巣 れない。花の心も読みとれまい。 泣く心境は、わからぬらしく語ら 「ここに来て水仙をじっと見っ

一、大島に前日斎泊して頂きます 生活が眼下にある。眼前の花も厳 る科学にも通ずる。厳しい獄中の になった」と同僚に述懐。政治に 道に求める終極の境地は、花の心 れたのだ。この理念は神を捜索す た我を物言わぬ花が呼び戻してく め、やっと自分の人生を知るよう しさに堪えて開いている。〇華 軍事に奔走して、いつか見失なっ

ば、弱い己れに克つ心を知る機縁 尼になっても毒を吞んでも、女性 花が教える優しさ厳しさがわかれ を知ることにあると云う。女性の 処世にもさまざまの苦悩があり、

よみて 如く冬の川澄む 一傷つきて漂う魚の見ゆるかな涙の (香椎宮に由緒ある御島の春色を 香 椎

織田

と言かに冷さのあり | 高菜もむ我が頰に吹く春風の四月 も春のすがたを見するのどかさ 香椎の海ゆかりかしこきありてに 大 井 木原ふさ子

はずもわれ掌を合わせたり 学位記を供へて拝む吾子の背に思 名 島 吉田 信夫

不合格は許されぬ受験の命受くと 前の簒雪になひきて 窓越しのなかめ広きに目をみはる 知らせ来し日の夕冷ゆる雨 宫 大井 田 村山 幸生 朔子 つ八方破れのたびごろも着て

して人生の自然がわかってくると 花の心を読めば、自然の人生、そ と。〇芸術も宗教も所詮同じ。 て自分にないものを探したいし 分の演技に疑問を持ちたい。そし

阿 蒙 少 囯

### 第公五回 製紙工場にて) 田 宗 熊 毎月十五日~切 像 大

社

献

詠

歌

詠草到着順

篠田太郎坊

の花ほのかに匂ふ いちはやき春の音づれ枕辺に沈丁 めくとさ命あるかに 数々の工程を経ていま成れる紙の 遠 賀 長畑 鷲頭かつ代 て奥より祝詞の声す 子の合格を頼む人等が本殿を埋め

村山田

吉田佐市郎

稚魚の動き見えおり 春浅く岸の柳もふくらみて水面に 勝 宗 像 吉武 浦 永島 武夫 文子 落の危機に遭遇して 初めぬ風心せよ 患者らも花見弁当配られておもひ 不幸中の幸なりしか我が命バス転 我が里の僅か二本の桜木の花咲き

吉田

占部

由久

宮

田

北原

君子

久々に磨き上げたる古き楽館厨に おもひに開く花蔭 東郷 藤崎

春の光あつむる 辰子

何時の間に孵化せしならむ鯉の 武丸立石ろせの

新車続くも

田

熊

小野 かをる

神鏡に春日の光る田島宮開運祈る

瓜は紅こく咲き初めにけり 春めけるわがさ庭辺よ先がけて木

門司

永島 哲夫

稚魚ならびて泳ぐ二十数匹 素足にて浅瀬渡りし遠き日よさし 宗像 中村

かかりたる川土手に佇つ わが庭をえらびて来しや常の春を 福 岡 江崎 琴子

青しふるさとの春 田は青し林も青しあちこちの瓦も さかりとしじになくなる 朝 町 井上陽之助

斧の音たよりにわけ入る松山を鳴 花の和布刈にいどみくづせる 早鞆に橋を架くるとショベル車は

吉 武 原田

リノ

うぐいすの声たからかに梅の花静 かにおつる春のたそがれ 朝 町 井上さえ子

出すと子の文にあり 裏山の出水のふちの芹摘を思いい きすぐる鴉の声のしたしき

深

田

中野

節子

名

残

竹原

椎茸の植菌終えし伏込みに木の香 田 久 小方 実

ただよう春の風吹く 粕 屋 浜津

風吹けば思いだされる故里の松の 林の父母の墓 津屋崎 麦野 時雄

幸運の画徳ありてふ朱竹画を床の 間にかけ朝夕に観る 平 井土性 トヨ

今年は桜をテレビにぞ見る 病にたおれ二カ月余りようやくに

夫戦死て二十五年の母の座を嫁に 平井 河野 静子

夕日のさし入る時も ゆづりて吾は安らぐ 背振嶺は時雨居るらし病院の窓に 福岡 徳 重 石松やす子 高橋 傘翁

大 井 吉田ますみ

夕なに和声尊し 三夫婦に曽孫も育つ妹が家の朝な 宮 田 片山

いつしかに老いて六十路の坂に立 柔らかに蓬は萠ゆる春の雨日毎つ づきて雛祭来る 田 島 白雲 山人

沖津宮現地大祭

て行われた日本海大海戦記念日を

して、一般参拝団の渡海が行わ 明治三十八年同日、沖ノ島周辺

調査出来ぬ島

(写真石、沖ノ島 全島を覆うタ

の原始林、

探険することが 内の内容を充分

写真左

測量する準備班)

月の第一午の日と限られていたわ の午(うま)の日で必らずしも五

の葉は、強い香気を有しているの

菖蒲ー菖蒲、蓬、楝(おおち)

ったと思われる。

の予定では到底

十五日 われる祭りである。 大な祭りを行った故事を偲んで行

月次祭

午前十時

鎮護」の大祭が行われる。 れ、沖津宮の現地に於いて「国家

当社の境内末社の祭りで、その

八神の神輿が大会合を行い、盛 し於て大社を始め郡内七十五社 江口の浜にある、浜宮、皐月 五日

浜宮祭 午前十時

月祭

午前二時

る日である。

ぼりや日の丸の旗を掲げて祝福す やかに育つよう国民全体が、鯉の を祈り、健康で正しく明るくすこ

宗

五日 子供祭 午前十時

子供の成長を祝い、子供の幸福

神社祭が御嶽山上で斎行され、中 早朝沖津宮大祭が遥拝所で、御嶽 旧暦三月十四日は宵祭、同十五日

早朝の海上は未だ寒く、加えて一

・漁業繁栄が祈念される。

中津宮春季大祭

午前十一時

日

日

月次祭 午前十時 (旧曆三月十五日)

五月のまつり

神 島 お 言 わ ず

わず様の尊姿が仰がれた。宗像族 ていた。その波浪のただ中に、国朝より鎌倉、室町時代にかけて、 は盾となり又矛となり、経政済民 きびしい波浪は、国土防衛の面で に関する記録は極めて乏しかっ 展開されていたのである。 して、宗像族の海洋活動は果敢に に及ぶ筑紫の海岸線一帯を背景に 鳥も通わぬと歌われた玄昇灘の料の調査を進めてきたが、沖ノ島 学術調査団の古代祭祀遺品の発見 られる。

た。陸地にある辺津宮や大島の中 して宗像神社史編述を企図し、資 復興則成会は、その事業の一環と は海洋活動の守護神と崇めた。 昭和十七年に発足した宗像大社 様 であろう。 得なかったのである。 史 宗像大社 話

を「お言わず様」と呼んだ理由をちは、古くから島内で何かを見て 脛切することが、その回答となる 知っていたため、その事情を人に なせ、沖ノ島について記録がなら考察すると、宗像漁民はじめ、 のか。それは古くからこの神島 神島に何らかのかかわりある者た た四、五世紀の祭祀遺品の出現か

まで、殆ど手がかりになるものを

また学術調査によって解明され

語れば、容易ならぬ不祥事が発生 める職掌も、多量で特異な神宝を

## 社史の中の宗像郡民 (H)

家鎮護の蟹威あまわく、厳粛に鎮 比 較的 豊富と言えるほど見られ る。神島信仰が海洋氏族のきびし る機会が多かっただろうし、干数 ります沖ノ島、すなわち神島お言 たが、沖ノ島関係の資料は、後の い掟として、これを守らせたと見 百年もの間には誰かが神宝の存在 の面では生活物資の補給庫を成し、津宮に関する文献は、古くは平安 に漁民の間では、この島のことを 合ってきたのであろう。特に大島 口に出すのも惮るという風習があ漁民は、沖ノ島に出漁して上陸す外、住民は居なかった。 現在でも女人禁制が守られ、特 恐るべき罪と自覚し、相互に制し を見たであろう。祭祀や驚備に勤 語ることが神のおとがめを受ける と潜から派遣される警備員少数の 常駐を続けたようである。第一に に水夫数名が従い、十名足らずが で、黒田藩政時代も、奉仕の神職 二人、大社の神職一人が固定人口 記録によれば、平素は藩士数名

れが口に出すもおそれ多いとし、 様に恐れつつしんだであろう。そ許されなかった。 タブー視されるに至って、いつし 教授、小島鉦作氏を団 長とする するかも知れぬと怒涛の荒海と同 か「お言わず様」と呼ぶようにな 学術調査団によって、祭祀遺品の 祀の 貴重な造品であって、宗像 ったと思われる。 沖ノ島は、元来神のみ住み給う 昭和二十九年五月、 成 蹊 大学

る。現在は灯台があってその職員 て、二回目からは九州大学の考古 象徴するものである。 的の調査が必要であると判断されると言えよう。神島は神郡宗像を 見て、もっと考古学的方法で本格 って、現地の調査探索が行われた 学の教授鏡山猛氏が団長となり、 三十三年九月まで前後四回にわた

島で、人は住まない無人島であ

指定され、内三百点余が国宝とな 干点余、その悉くが重要文化財に 発見された遺品は、合計二万

の補給による外なく、その輸送も 世紀に属するもので、種類もきわ 水が少なく、生活物資は外部から 困難な条件を伴い、多数の居住はめて豊富で、三十九年に竣工した っている。いづれも四世紀から六 **宝物館に収越されている。** 

存在が確認され、その量と質から 郡民の先祖の偉業と宗像大社尊崇 時に、宗像族が古代に関係した祭 の歴史を物語る郡民の重宝でもあ これらは国家の至宝であると同

不吉な知らせではないので安心し の書状に急ぎ目を通していたが、

ぐったりと坐りこんでしまった。 帰城になりました」と一言云うと

熊三は城主の書状を手渡し、

福田長庵画

章浦柴舟



# 調

備

班

島

す

沖中両宮の脊祭で、五穀の豊穣 | 他)十名は、大島に渡り中津宮に 半に大島港を出航した。 一夜参籠をおえ翌三日、早朝五時 二日、沖ノ島調査準備班(設営員 宗像大社春季大祭最終日の四月 た。 ノ島に十時に上陸することができ
|態となり全く心細くなって来た。 酔者は一人もなく、無事目的地沖 | 意の食料 (五日分) も底をつく状 時化模様で相当船はゆれたが、船 | 出来満足であったが、段々と用

(五月六日より約二十日間)を、 今回の渡島は次期測量班の作業 行われる諸調 もので、次々に る諸準備の為の 順調に推進させ 々に迷惑をかけるので、食物の喰 れる野草、海のニナ等を、暇な折 なった。野生の蕗を初め食べら 欠き、避難港工事、滞島漁師の方 った。 りに採集にあるき廻った余談もあ この状態で時化が長びくと食糧を

に来る手筈であ 島し、翌日迎え より北西の風が 都合で大島に帰 見当及び島内地 ったが、四日 予定であった。 で、一泊二日の 形の踏破調査 査の宿泊設備の の地域を、測量調査する事に一応 り、前回調査済みの沖津宮本殿迄 の通り島の西海岸より大麻島に入 であるが、調査の結果、先月既報 して、その地域の測量を行うの も同行し発掘調査の場所を決定 せず、次回の渡島には考古学者 決定した。 今回は考古学関係の学者は同行 今回の渡島メンバーは、左記の

り、六日まで された。 り、帰陸は一時 す大時化とな 避難港波止を越 うか、一泊二日 断念を余儀なく 段と強くな そのお陰と云 通りであった。 同美術館 松 見 守 道 出光関係 小 神社関係 鹿島関係 日 隈 末松(学生) 斎 吉 村政 藤 本仁太郎 野雅一 淳 義 停

るようでなけ

すらすらと出 ていどの事が 「武者人形」 菖蒲

「粽(ちまき)」

玄海わかめ 献上さる

め"が、皇居賢所、天皇・皇后両 上された。 陛下、皇太子殿下・同妃殿下に献 灘に於ける今年初採取の"新わか | り今年で第七回目に当る。 陽春の去る三月二十四日、玄界 | 八年四月に第一回目がなされてよ

いのばし方法を考えねばならなく一てビニールの袋に入れられ、密封 の四名の手に託され献上がなさ 藻製された。且つこれらは杉の柾 清めがなされ、神職と巫女によっ 郎氏(福間)・天野力氏(勝浦) 司、升谷権祢宜、並に郡内七浦の 板の木箱に納められ、当社久保宮 かめが当神社に届けられ、先ずお 漁業協同 組合 代表者、井本仙一 同月十五日頃、採集された新わ 人一人に感謝状と記 典に引続いて行わ が当神社春季大祭第 対する感謝状贈呈式 表彰者氏名次の通り 念品が手渡された。 れ、久保宮司より一 採集奉仕者の高齢者 一日祭の際に、祭 (六十五才以上)に )内漁協名

玄海わかめの献上は、昭和三十 大島)砂子勢六兵衛

れた。

(鐘崎) 七田芳松、花田喜七郎

(神湊) 梶木長次郎、梶木光造

ていた兵達はどっと

この様子を伺い見

けて、「これは一体 克忠のもとに押しか

もある。

しかし許斐一族に

んとなく変な気持で もあり、合戦をせず 帰るとなると嬉しく

に帰郷するのは、な

愈々帰城だ、いざ

(津屋崎) 占部市右衛門、魚住善

太郎

(福間) 広渡勘次郎 地島)橋本恒雄、村田周藏



五月五日と言えば 「鯉のぼり」 「端午の節句」 テレビの連想ゲームではないが、けではないが、五月は古くより物 で駆魔の力があると信じられてい れる。これが上巳の節句(三月三 って固定的な祭日となったと思わ発ししている。 忌みの月であり午と五の音通もあ た、菖蒲湯、菖蒲酒もこれに源を 粽(ちまき)-五月五日は中国

祭 9 ま つ

言う事になれば若干のガクを必要 なることを嘆くべきである。 とよぶか何故ちまきを食べるかと しかし何故この日を端午の節句 は病気災厄を払う目的で五色の糸 の五色の糸が変化をしたのが吹流 を臂にかける習慣があった。こ しで、またこれに鯉は出世魚とい 鯉のぼり一中国の古俗に端午に

のはこの日に近衛府で騎射の行事 日と伝えられ、その死を哀れんで 日)に対して男児の節句となったの愛国詩人屈原が汨羅に投身した を行ったのが始である。 竹筒に米をいれ楝(おおち)の葉 にくるんで水中

端午の節句ー端午とは月の初めう思想が入り鯉のぼりとなった。 が国に入り時代と共に形式化し、 の日に蓬の人形を門口に立て、邪 武者人形―古代中国に於いてはこ 尚武の気風が加わり武者人形にな 気を払う習俗があった。これがわ 言われるが定かではない。 (五) 粽になったと に投じたのが変 化をして現任の

とにした。 申し立てた。 ためると熊三を呼ん 事を詳細に書きした 以来、今日迄の出来 康氏の裁決を得るこ 出し、城主許斐三郎 は、許斐城に早馬を う思案に余った克忠 か」と口々に意見を 克忠は許斐城出発 瞑想数刻、とうと

「はい」 「この書面を持つ 熊三

境を過ぎ、克忠の

いつしか粕屋の郡

近づいた。 行は許斐城の目前に

れない。多々良川を渡る時に熊三 がふわふわして、どうもうまく走 を走らせた。永い船旅のせいか体 熊三は一目散に宗像に向けて馬 だぞ」「承知しました」 につき必ず返事を貰って参るの命じた。 行け、大事な書状 まやおそしと待ちわびていた。 が克忠にとっては身を切られるよ すすべがなくぶらぶらしているの 兵士達は戦闘意欲をそがれ、な 一方、博多では熊三の帰りをい

斐城に到着、早速城主康氏に面会 なや、また一生懸命走り続けた。 は頭から水をざんぶとかぶってみ は、馬にもひと水かけてやるやい どうにか身が軽くなった熊三 ついに一刻(二時間)ほどで許 たろうか。熊三の姿がかすかに見 うにつらい。 った。 いらいらしつつ、如何ほど待っ 「おーい熊三」

すわ一大事かと康氏は克忠から 克忠は熊三の方に向って走りよ | 康氏殿の返事は如何であった の心中を祭して早く帰らせるよう

か

うづく

やかた)に入ると城主康氏は心ず れた。やがて城門をくびり、館 充分な休養をつけなされ」 をあたたかくむかえ入れてくれた くしの祝杯の準備をして克忠一行 の者、今日からはゆっくり休んで く部下を統率し働いてくれた。 「永々の行軍御苦労であった。皆 「多々良川の合戦以来、実に上



(其の二十六

多々良川の合戦での傷は深く さきほど兵士達に今後の出陣に際 し訓示を終えたばかりだ。 ここで困ったのは克忠である。 しかし許斐一族の事を思えば、 たまなざしをむけた。

ればこれ以上、加担する必要もあ

ることに決定した。皆の者、帰城

「城主康氏殿の御命令で帰城す

の準備を致せ」

指示を下した克忠は、仁木義長

仁木義長殿がそう申されるのであ 足利党に対する義理は立てた。

克忠は直ちに兵を集めた。 「よしわかった」

を下しかねた。 た。さて如何致すか、克忠は決断 いようでもあり、迷惑でもあっ は大きな痛手でもあるからだ。 合戦でこれ以上兵力を消耗するの 直接神郡宗像に関係がない他所の 仁木義長からの申し出は、有難 それを手渡し、許斐の城兵は仁木 り申し出通りに帰城する旨を伝え こみあげてくるのであった。 さの余り、康氏の目には熱い涙が るまい。 に帰ってくれると思うと、うれし 義長の申し出通りに引上げるよう<br />
た。 気魂気鋭なる腹心の克忠が無事 返事をしたためた康氏は熊三に

言葉を述べ、城主康氏の指示によ 礼をした克忠はおもむろに挨拶の のもとを訪れた。うやうやしく一

どうした事でござる

て直ちに許斐城へ

国の世は、いつ世相 意ではない。また戦 的であり、やたらに 安堵させることが目 とっては神郡宗像を

台戦をすることが本

兵達を充分休養させ が変化するか予測は

ておく必要があっ つかぬ。その為には

城は、なつかしくも美しく感じら 久し振りに見る許斐

あさ殿が待っておられよう。 早く帰ってやりなされ」康氏は彼

児

行

列 六 百 人

で

賑

う

鎮

玉

慶大法

の大修復を祝う落慶大法要が去る

半)の内部造作、銅板屋根葺き、 り大護摩堂(間口十間、奥行八間 に建立された鉄筋コンクリート造

仰ぐ時、この日、この人、感如何た。屏風山山腹に並び建つ伽藍を

ばかりのものがあったであろう。

の日の歓びを迎えることになっ

宗像大社の本地仏を安置し、国

月三十日に執り行われた。

当日は日本列島を被った寒波の

数万の多きに達したという。

今回の落慶大法要は開創千百五

粒々辛苦: 干年

三年、それより

の歳月を経て此

のクラスの先駆ともなったこの自

年二月下旬よりスバル F F――

るデュアルラジエーター方式。今 置く方式、冷却ファンを用いな

迄のオーソドックスタイプの **F** 

ル1000シリーズを改良し今一いで、冷却効果を得ることの出来

発売して市場の話題を深ったスパ

五分とどこおりなく終了した。こ 山主の謝辞があって午後零時四十

として晋山され

山より特任住職

り立部山主、篤信者を称える挨 へ堂、 法楽をささげた後、 森管長

廃の極に達して

(写真は稚児で賑う宗像大社社頭)

キャッチフレ

ーズのもとに 高級大衆車の のFF方式

スペアタイヤをエンジンルームに ファストバックスタイルと共に、 それにしても初期に見るスバル ーンジも止む無き措置と思われる。

1000は

断な国産初のセミ

立部瑞祐師が荒

昭和44年5月

法要はまず護摩堂前で庭讚して

1 日

二キロの道を練り歩き、大法要に

と言わねばなら 史上画期的な日 もので、鎮国寺 事の完成を祝う 円を要した大工

であけた一行は鎮国寺まで延々 上刻午前九時三○分、 神職のお被 広場も人の波で埋めつくされた。 付添人等数千人でさしもの境内 であったが、稚児行列のため、大 襲来のため、春とは言え肌寒い日

社境内を集会所に集った人は稚児

た境内施設としては石庭や、駐車

真言宗御室派に属する。 弘法大師が大同元年唐より帰

場の拡張等、総工費三千五百万 輪観音等五仏奉安)の大修理、ま きで大日如来、薬師、釈迦、如意 奥之院通夜堂の改築、本堂(萱葺

に開創したと伝う。

話

題

の

新

車

をみる

(元)

去る昭和四十一には耐え難く、今回のモデルチェ

一動車も、おしよせる高速時代の波

年「国産初

### 去る四月二十日午后一時、出光興|業、教育」などの問題をとりあげ|」と語られて、当日の参拝となっ 記者が当社に参拝された。 出光佐三氏の案内で、ドイ な実業家の内から、石坂泰三、松

・取材するため派遣されたもの。 の記者は、ドイツの三大雑誌の一下幸之助、出光佐三の三氏を選び 誌が日本特集号「将来の日本」 つ「シュテルン」の特派員、パ ベル、同エルベルの二氏で、 て日本人の特質にふれようとして その人生観、会社経営等を通し

特集号には「日本の文化、産一来られていたため、記者二名は東 折から出光佐三氏は宗像へ講演に

出光会長にインタビュ 京から空路来福され、

宗像大社でお話ししま 大きな役割を果たした 像は日本建国の時代に うに、北九州、就中宗 代史をみれば明瞭なよ は宗像にある。日本古 ある。

ることができましょう 宮斎場に日本の心をみ しょう。宗像大社の高 外人記者に語る出光佐三氏

た。出光会長は拝殿で、日本文化 人の参拝を珍らしそうに眺めてい 境内は家族連れの参拝で賑い、外 当日は休日で晴天に恵まれたため と其の意義を語り、拝殿及び 宮斎場の昔の姿、その建設の経過 発祥の地と宗像大社との関係、高

出光会長は「日本の心 | で「日本人の世界的使命」と題す る講演を行い、聴衆に深い感銘を 与えた。記者はこの模様をも取材 尚、この後、出光会長は宗像高校 様を記者のカメラに収めさせた。 高宮で参拝されて、自身参拝の模

畑

榊 宗

0 像

大 会

木

を

奉

納

された。御復興の青写真では、現一大社ではこのような献木が続くこ

境内の広場を昔の鬱蒼とした森に一とを希望している。

とまず宝物館入口附近に仮植え 興の際、境内に植える予定で、ひ

後、植樹が多量に必要と見られ、 するよう計画されているので、今

八波則吉翁

女を主体とする漁業が中心で、

採取する海女であった。当時は海

のである。このことを一イフ」誌のような体裁とのことで 部程刊行されている。いわば「ラ 「シュテルン」は週刊で二百万 戸畑宗像会では、先頃榊の大木三 本を奉納された。

(写真は 本殿脇で説明する 右は久保宮司) 出光会長、左がエルベル氏

> 出身の造園家南善次氏が永年にわ この榊は戸畑宗像会員で津屋崎町

も宗像大社に献木したいという申

### 神 郡 宗

### 摂 末 社 を 訪 ね 7

その姿を失い、今はその跡を知る したい。長い歴史の流れのうちに 今回より宗像郡内の末社を紹介 ○はじめに

郡内七十五末社をたずねて、当社 があったと想像される。 る。それ以前は、もっと多くの社 記された社にも様々な変遷があ 等、七十五末社といわれ、文献に 支えられて社域隆々としている社 他ないものや、今も尚厚い信仰に

との関係、歴史的信仰の姿を眺め てゆきたいと思う。

らないものを末社或はえだみやと

一本社の祭神に対して、縁故の深い り深いものを摂社、摂社までに至 から行われる神社の称で、その関 |神を祭った神社、或は祭りが本社 ○末社の名称について

則ち当社境内にある社を境内末 て、それぞれの土地に鎮座するうも兼ね具えるようになった。 が、古くは郡内七十五末社といっ 明治以降は、更にこれらが所在

地によって境内、境外の二つに分 一社、境外の××町××に鎮座する一ぶすな社(鎮守さま)の祭りを当一け、他は単位神社となって、当社 けられ、摂社、末社の別に社格を

(-)よって差異があり、一様ではない 当社の摂末社については、時代に 社を境外末社と呼んだのである。

である。

三末社の中、その第二、第三宮を 明治以降は、辺津宮境内の二十

鞍

境外五摂社については、王子神社 だけが摂社として当社の祭祀を受 宮境内社は従前のままであるが、 終戦の翌昭和二十一年以降、辺津 孔大寺、宮地嶽の五社は、これを と縁故の深い織幡、王子、的原、 の郡内七十五末社の中、特に当社 特に摂社と呼び、それ以外の二十 境外摂社の班位に列した。しかし 社を末社と呼んだ。又古来から

延宝四年(一六七六)辺津宮境内

して二十社が設けられたのであ に境内及び境外の末社を勧請合祀

予定である。

物語っていた。





# 行

去る四月十七日、東京宝満会一行 宝 満 会

たって育成されたもので、是非と一仕された。 一植樹費用を負担して態々戸畑から 直径十五センチ、高さ五米にも及 氏他関係者が見えられて植樹を奉 当社まで運んだものである。 東京宝満会は福岡出身の財界トッ が当社に参拝された。

あった。

バスに同乗、当社の近況を紹介し

当社久保宮司は福岡から

出により、同宗像会で運賃並びに一ぶ榊はめずらしく、来るべき御復 見ておきたいという会員の希望に 来福は郷土の発展と変化の実情を タに集合、バスで先ず始めに宗像 プクラスの集りである。この度の 光興産会長出光佐三氏、日立製作 た。この日、参拝された会員は出 大社に参拝して帰郷の誠を捧げ 行われたものである。 より、二日間のバスによる視察が 行は第一日目ホテルニューハカ



相談役倉田主税氏、麻生セメ

方式、水平対向4気筒水冷4サ | 車に於いても作成上の必要条件の クと云うハンドルがロックされ、 しかもエンジンキーと一体になる|等はブルーバード、コロナetcの させる)方式。ステアリングロッ ト会長麻生多賀吉氏等十三名で

込式の新しい尼灯方式である。新 1100 cに、セダンは7馬 エンジンは1000cから ラー、アンチバーストロッ

のではなく ステアリングロック だが今となると別に目新しいも

である私のところにひきあげて来 っていましたが、昨年秋に長男 充分ありそうです。 すから父が「伝説」になる素地は す。「あの山の松の木」も「用水 用水池」(内殿)などがありま 池」も昔の姿をとゞめないようで ており、御紙を毎号たのしみにし

母は父の死後ただ一人で墓を守

動車のサニー1000と共にこ | ジン、フロントドライブと云う ( ) 車初のと云うだけあって暫新さの R方式に対抗してフロントエン | ニオンギア型方式等々、正に国産 固りのような車であった。 イクルエンジン、ラックマンーピ

ようなものである。

ク、ピラーアンテナ等である 設の ものはフレキシブルフエシ フロントグリルとバックランプ埋 馬力の馬力アップがなされた他、 力、スポーツカータイプは10

一此の右手の財布を凝視した不吉

からである。

た。又大島中津宮においては、境 上の関係をとどめるのみとなっ |社が行い、これを末社と呼んだの | の摂社としての管理を離れ、由緒

ら始めて行きたいと思う。次号 の一社一社について先ず境外社か にのべたのであるが、この摂末社 として附属している。 神社以下六社を末社とし、沖ノ島 外の御獄神社を摂社、境内の岡堺 せられる織幡神社をたずねて見る は、玄海町大字鐘崎字鐘岬に鎮座 以上、当社の摂末社について簡単 三位社との二社が、それぞれ末社 の沖津宮においては、大神宮と正

た事が予想された。

なたぼっこを八十三才になる母と を南国土佐の暖い陽光を背に、ひ **与朝のTVで御地の激しい降雪** 家族からの便り れり」と。 商人、海人まじ 家すべて二百余 して、町有、民 筑前風土記によると「民家多く 加代は浜の磯

らしいところはあまりなく、ただ。に一人の若い女性が浮上している を母ともども厚く御礼申し上げま 福岡市の市歌は作ったかもしれま いながら読み始めましたが。伝説 既に「伝説」になったかと笑 見ると巨巌の蔭 程行った。ふと 主社のホコラの 下を南に約一丁

は福智山)「おじさんの家」(上 見つけた」(「あれあの山」の山 の小学読本の中の作品は「一番星 >存じます。 宗像と関係の深い父 とありますのは私立の高女のこと れていました。又福岡高女の校歌 せんが歌われることがあったでし 西郷の伊東さん宅)「麦ふみ」「 ょうか。八幡市の市歌はよく歌わ ていた。加代は恐る恐る近寄り、 の髪のほつれがロウ人形にも似た ではないか。驚いた加代がかけよの大桧を主柱として、豪壮な家 かけて掌をかがしてみた。 静かに小鼻のあたりから、口許に にあわせて、ゆっくりとゆれ動い びた肢体は打ち返すうねりの波調 青白いうなじにかかり、垂直に伸 賀銘仙に西陣の帯をしめ、裾の赤 り、 最後の仕上げの床間正面 って見ると、年頃二十才余り、加 い

成出し

が青緑の

波に

乱れ、

黒髪 か、不幸が重なり遂に跡絶え果て

染めの財布が握りしめられていた の目を驚かしたのは、此の女のか とった。しかしながら、更に加代 冷え切った女の肢体には未だ僅か と、過去の幾度かの経験により、 に生命の灯が残っている事を感じ 彼女は、海女特有の鋭い六感 た。手型屋敷は住む人もなく 屋根は傾き、軒は朽ち、やがてあ

代は突然悪魔に魅入られたのか 落された女の執念の血痕が、永久 10 るぬるとした赤石がある。 石に交り、黒ずんだ不気味なめ で浜一面を敷きつめた有名な小豆 津和瀬の海は今日も静かにない

# 宗像伝説 其の九十

前夜来吹きに吹き荒れた玄海の 手型屋敷と津和瀬の赤石

ち上げられ、昨夜の嵐の激しさを ていた。そして、海浜には海藻に 海上は物忘れたように凪いで、晩 そして大枚五十両以上は十分と値 交わり、おびただしい漂流物が打 春の陽光は暖かく海面に照り輝い 踏みした加代の心は徐々に財布を これだけの金があれば、 もぎ取る事の方へ傾いていた。 な眼はいつまでも動かなかった。

浦は、僅かに二、三戸の苫屋が並 び、人影もなく静まりかえっては 朝早く独り漁に出た。漁とは云っ 物から察して、異常な遭難があっ いたが、今朝はその無気味な漂流 ても磯廻りの魚、貝、海藻の類を 江戸も末期、此処大島津和瀬の 大島村の漁師六兵衛の妻加代は 頃な岩石で頭を滅太打ちにくだ 兵衛に高価な薬を、五人の幼い子 は財布を更に固く固く握りしめ、 命は跡絶えたけれども、その執念 たが、どうしても抜けない。では 代は力一杯財布をもぎとろうとし 立派な住居をと、悪鬼と化した加 いっその事殺してしまえばと、手 供等にはうんと腹一杯の御飯を、 いて、手足を硬直させ、完全に生 いた。女は血だらけの顔に目をむ

ぶっつりと切落した。あたり一面 魔術師の如く強かった。加代は、 ついに腰の手刀を抜いて手首から と云わず真赤 岩と云わず藻 もなく加代等 な鮮血で染ま それからま

目をみはるげ 島中の人等が 家の生活は

になった。 かりの裕福さ

とまりよく語られて居りますこと 吉が「伝説」欄に実にみごとにま し乍ら届いた貴紙を拝見、亡父則

岩を登り、小岩

伝いに巧みに大

を飛び渡り、

ざわざ葦屋在

の白壁を塗り上げる時に異変が起 の大工棟梁市之助を呼び、孔大寺 を建てた。やがて棟上の祝酒も終 とる事が出来なくなった。島 塗っても消しても、どうしても 手型が突如として浮かび上り、 き、加代の一家は悪行のむくい 中は手型の屋敷として恐れおのの った。白壁には鮮血に彩られた

とかたもなく消滅した。

くら

医師の家の門に落ちくる野

詠

光佐三一問一答シリーズ

33

俳句作品集

(岩)

雪かぶる日もありて咲く木 福 岡 広田 篠田太郎坊 美津

静もりて辛夷(こぶし)咲 波光る思ひは遥か流し雛 煙雨中黄白花咲く春の園 井 熊 熊 木原ふさ子 小野かをる 小野 淡坡 程度の言葉が適当だろうが、大衆

峡の子の顔のあかるさ山ざ 門 津屋崎 司 佐川 永島 哲夫 凡石 した徳の人がリードして行くこと の行き詰まりを見れば、すぐわか た政治は駄目だ。今日の議会政治 い。そこにやはり利巧な人、卓抜 めても凡であることに変わりはな が必要じゃないかね。衆凡を集め 32 互譲互助や和などは

唱えられる精神訓話であり、従業 いしは経営者、権力者の立場から マルクス主義によれば、資本家な れるわけですが、これらの徳目は 助・和というような徳目が強調さ では、愛情・信頼・融和・互譲互 資本家のかくれみのか 店主の人間尊重の考え したりしてはならない、というこ 世間の恩を知っているから、世間 わせに暮らすことができるのも、 ろが日本ではお互いは仲良くしあ に対して義理に欠けたり人情に反 世間のおかげであるというふうに いう体験・事実がないから、どう

昏れ残る芽木に多感な髪か 落椿眼下を巨船往き交ひて 大 津屋崎 井 浜津 鴻浪 吉田ますみ

らむ

夕東風や湯の町の馬車珍ら 握のつくしを膝に弁当ひ 鹤 賀水

宗

徳をつむ高僧ありき花の塔 笑む 見えぬ目が児の合格を鍼に 田 京 都 Ē 路 白雲 山人 草 ことではない。ただアメリカにお が、基本的に間違っているという いては、まずこの長期計画と取り れを実行していこうということ 的に将来の青写真をつくって、そ これは長期計画をつくり、組織

見逃したことである。 しなければならないかという点を

企業が先の計画を立てた

だけの能力、あるいは知識を持っ

いったようなことであれば、これ

のための一つの団体をつくろうと

た計画を取り上げて、人間の改善

たとえば大学あたりがそういっ

成り立つかどうかということを考 ていたとすれば、これは経済的に いまただちに将来の計画を行なう

き仕事ではない。他にもっと適切 は利潤を追及する企業の行なうべ

在行ないうる、なんらかの

とは、一〇年先何をなすべきかと けてから現実の行動に移り、そこ で当然わかってなければいけない ことがようやくわかったというこ 一〇年たって、相当の費用をか一ろと命令することに尽きるかも知 れないが、それでも行動がとれた り、アクションがとれたと考えて に、これについてもう少し研究し 何らかの形で、現実の行動にた。これは非常な希望的な一つの憶

に重点をおいたので失敗をしたと 場合に間違ったのは、将来われわ 組んだ最初の試みであるが、この

できることはただ一人有能な人間

られたとすると、それについて、 場合には無意味である。 アクションと結びつかない 場合に、それがただちに現

経

営 と P

何 ラ ッ か

F は

۴

カ

たとえば将来の一つの形がつく

れが何をなすべきかというところ

形にもっていくのには、現在何を

真の思考ではなく、夢を見ている

いうことよりも、一〇年先のこの一だちに移らない場合には、これは

測、計画だといえる確率が非常に

合に考えぬいて見て、経済的に成 えて見ることである。もしその場

な機関があるはずだということが

いえよう。このようなテストを決

り立たないという結論が出ると、

応用して見て、そして十分に反省

定的に自分の考え、自分の方針に

をしてみるということが必要であ

る。

十二世ま

| やないか。民衆、大衆が主人であ | 対立闘争が起こっているが、日本 るべきものとして言い出したのじしじまった外国は、物を中心として り、中心であると。しかし、これ うな中心がないから、それに代わ ないのじゃないかね。ぼくが考え一蔵するかくれみのであると考らえ 「衆愚」と言ったものだ。愚とい はいい言葉じゃないけれど、昔は ことは、外国には日本の皇室のよ
ますか。 るに、民主主義の「民主」という
れています。この点、どう思われ 人は一度考えなおさなければなら
|実に利害の相反する階級対立を隠 義理人情・恩を知るというような じまったところには、互譲互助・ のように無欲・無私の祖先からは 出光我欲・利己の祖先からは



とはなく、もし喰べたとしたら、

それは鰯、次のような経歴の鰯で 易く、寄って来て小さい丸い口で 右上膊の内側を蛭に噛まれその噛

を枕に寝そべっていると小魚が心

い。わたしは手に掬みながら、岩 無害なものになっているに違いな

ぶようにして帰る。ある日、わた 撃中。こりゃあ大変だと大股で飛

しが宿舎で昼寝をしている時に、

ある。一年の中で、もっとも鰯の | 〇〇〇〇の 先 を 心良い程につつ | み痕が数カ月黒く残って、思い出

魚など日頃買って喰べるようなこ ら。昔の百姓は実につつましく

い方がよろしい、素性が知れるか 葉は見合や、嫁入り先ではいわな

それも灼熱の太陽に照らされて

群が肩いからせてわたしに向い襲 と見ていると 落葉の上を蛭の大 しいものはいない。地面をじーっ 来る。なにものであろうとジャン 当らない。そのうちに何か周囲か

れば象か虎の屎尿ぐらいのもの。 はもう人は住んでいない。もし

うのは皮肉だろうか。こうした言一この流れを穢すものがあるとす

魚は喰わなかったことになると思

さい時から鰯ばかり喰って、他の

のである。この清流のここより上

グルを透かして見るが何もそれら らざわざわという音が盛り上って

遥か故郷のことを思ったりしたも

今日のわが身の平穏さを感謝し、 わたしは日に一度、静かに浸って る。わたしたちの宿舎の傍をタケ

それを鰯なら喰べるけれどとい

いたましい食べ物

ゴン河という清流が流れていた。

である。数発射ったが、肉が小さ く、ひらりひらりと身をかわし、

分れた尾の長い極楽鳥といった鳥 た鳥は全身黒色の尻ッ尾が二つに 日、ピストルを片手にジャングル える、あの鳴き声の鳥である。こ オブ・ジャングルを見ていると聴 レビのジャガーの目や、ラマー・

の村、グンパンの道路作業に戻

さて、話は前の、人の住む最後

に入り待っていると、近づいて来

いつを一つ捕ってやろうと、ある

南 方

を買って、これを背丈もの大甕に 安い季節に、四斗俵一俵ほどの鰯

塩漬けにしておく。そしてそれを一の平和さである。大山元帥ではな一撒いて予防した。

しているのだろうかと思うくらい いてくれる。全く何処の国が戦争

れからは床の柱のつけ根に石灰を したように痒くなったものだ。そ

つづく

華やぎて主婦等の旅行麦青

っているのだが、衆凡をいくら集 近ばくは「衆凡」ということを言 き居り友の庭

大

井

吉田ますみ

ては、権利の放棄であり、邪道で いるところには、お互いに譲ると あり、卑屈となる。外国のように 光が第一選手でやっているから、 験のない外国人には実体をつくっ の対立闘争が解決されましたとい 和と互譲互助の精神で、あなた方 らいたいと思うね。 日本人が早く本来の日本人に帰っ 33 宗教は阿片か 第二選手となってつづいても

質問 マルクス主義では

と考えざるを得ない。

第二のテストは何かというと、

恩を知るということはない。 征服ばかりされてきているので、 とするんだ。かくれみのどころか 体験がないんだから、わかりっこ か和などは、外国には事実がなく 言葉になっているんだ。外国では 質問にある信頼とか互譲互助と

しても理解できないんだね。とこ一てみせる以外にはないよ。今、出一めにあるものではなく、全人類の 権利を主張することのみを知って一うことを、出光が現実に五十四年一たかもしれない。しかしそのこと | 間示してきているではないか。体 | と、宗教の本質・根本とは何ら関

民主主義の実体について、日本一員を働かすための口実であり、現一とになる。これが義理人情という ないよ。だから、そういう立派な一すと、そのような面も認められま 道徳さえ対立闘争の道具に使おう一す。マルクス主義者が宗教を「阿 片」として非難したのは、彼らの か、社会的役割というものを見ま うわけです。確かに宗教の歴史と 性を眠らせる「阿片」であるとい をもってなぐさめる」(レーニン って、宗教は、人間の目ざめた知 する無階級社会への実践運動にと 会の発展にとって有害な働きをし 目撃した当時のキリスト教が、社 ていたからだと考えられます。 と忍耐を教え、天国の報いの希望 人間に対しては地上における屈従 一方、店主は個人の修養、心の

「宗一だろう。こんなふうに、人間の心 るのだが、誰でも善い行ないをす う地獄・極楽を考えてみるとわか 係ないよ。宗教は特定の階級のた 獄に行くというように説いている れば極楽に、悪いことをすれば地 宗教を利用したようなことがあっ れについてどう考えられますか。 果たしてきたと説かれています。 れには日本の宗教が大きな役割を の批判したところなのですが、こ しかし実にその点こそ、マルクス 満足などの重要性を強調され、そ 出光過去において資本家が

ためにあるのだ。これは仏教でいしなくなれば、もはや神とか宗教と

)と言い、マルクス主義が目的と 一のことなんだ。マルクス主義の言 ある」(レーニン)と言い、また ろで重圧する精神的圧迫の一種で されている人民大衆を、至るとこ って、困苦と孤独とによって抑圧 教は他人のための永久的労働によ一のあり方を、全人類のためにわけ 「宗教は一生涯働いて苦しみ抜く」て、人間が心の底に求めるものを るかがわかりはしないか。 らにとっていかに脅威となってい にすることは尊いことだし、当然 ね。マルクス主義の宗教に対する い分を聞けば、反対に、宗教が彼 へだてなく説くものが宗教だよ。 マルクスの場合は対立闘争の戦

せざるをえないというわけです。 くしたがって神とか宗教の存在 いう不安とか、生活の危機とかが つくった偶像である、というよう ず圧迫されて生活の不安とか危機 主義では、神というものは、たえ に変わりはありません。マルクス 義が宗教を本質的に認めないこと 考えられます。しかしマルクス主 理由がなくなって、必然的に消滅 いったものによりかかる必要はな に考えています。ですから、そう 礼拝を或る程度許していますが、

くる千年も前に日本にあったとい

神現象の一つの産物である、 そういうありがたい祖先を神とし 一洋の神とは全然異なっている。 一えないわけで、あくまで人間の精 を実際に身をもって教えられた。 て祭っているのであって、宗教で 無私で平和に仲良く暮らすあり方 い。われわれの祖先が、無欲・ 出光 それについてはあとで

宗像藪庵先生百話

太郎

また、なつかしいものである。 喰べていた物が、一番おいしく、 人がなんと思っても、幼い頃から 思い出を書いてきたが、要するに一くる。なんという鳥だろうか、テ

肪の補給源でもあった。 年を通じての唯一の魚であり、

いろいろと、食べ物の痛ましい

鳥の声がこだましながら近づいて

ていると、川辺のジャングルに怪

かどある時に出して喰べるが、一

脂

といいたくなる。暫く岩間に眠っ

いが「今日もいくさがごわすか」

華やかなりし頃

要するに神が実在しているとは考しを念ずる以外にないじゃないか。 にさらされている人間が頭の中で一になったということだ。 これは宗教に対する一つの戦術としよって教わったのでもない。干年 質問
今、ソ連では教会制度や
一うことじゃないか。仏教によって

|かわからんよ。仲良く平和に暮ら | たったところに、仏教とか儒教な キリスト教もそうだろうと思う
うふうに考えるのです。 れにしても宗教を阿片とはひどい ことをいってもいいだろうが、そ になる。戦術としては、そういう | 理論をあてはめたということなん にをいっているのか、ということ 場だからね。戦場ではなにを言う 見方は、少し理屈にとらわれすぎ | 述べることとして、日本の神と西 している世界の側から見れば、な | どが支那から入ってきた。そして | うのはどうもおかしい。これは小 無視してはいないかね。<br />
宗教によ<br />
|本の神はわれわれの祖先であっ って人類を平和と幸福へ導くよう一て、偶像でもなければ宗教でもな 指す平和と福祉が、仏教の入って だ。言い換えれば、マルクスの目 その平和の実体に対して字句とか 福祉の実体を示され、千年ばかり もなんでもない。そういう平和と

教わったのでもなければ、儒教に ところが西欧では、我欲・利己に 発達すると同時に、日本の国体を は、日本の平和の国体に抱かれて みがきあげて、日本の宗教の中心 んとうだ。そして、仏教そのもの 前から実体があったというのがほ

にロマンチックな考えを持ちがち ックをしない限り、とんでもない るようにという、いろいろなチェ ように、現実に即応した行動にな なのであるが、現実離れをしない ところに夢が走ってしまうという とかく企業家というものは非常 ないという欠陥がある。 全然市場とかけ離れて、そして末 ら技術層の中に、数百の人間が、 企業体になると、管理層、それか うのが普通である。非常に大きな 社内の事柄に忙殺されているとい ほど、この企業経営者の大多数が また、企業が大きければ大きい

と、それだけに大企業の大きな将 置されている人間が非常に多い 大きくなれば大きくなるほど、各 ないということがいえる。企業が 現実の仕事、現実の機能の面に配 のでなく、組織化しなければなら ・マネジメントのみでまとめるも いうものは、単に企業家やトップ ことが起こり得る。 それから将来についての計画と いへんな仕事になってしまう。 業になると、むしろその大きな組 決されることも多いが、大きな企 面にさらされるので、常に日ごろ を知らないという者すらいる。 端消費者などという不愉快な存在 からこのような問題は理解し、解

としたような、天にまします神様 さわる。そこでなにか哲学を真髄 敬するところじゃない。しゃくに 圧迫ばかりされておったので、尊 みて、征服者は尊敬に値しない。 もとづく対立・征服の形をずっと つづけてきているので、国民から 便 n

織図と取り組むことのほうが、た一ありますので、一入御神徳の程が 小さい企業であれば、あらゆる 日、それの防止として頂く神社で 時恰も交通事故が年々増加する今 跨とするところであります。 ら官幣大社の宗像神社の鎮座まし 県下でも最も小さい郡でありなが つまる思いが致しました。 の程も偲ばれてありがたさに胸の 申す迄もなく、宗像神社の御神徳 拝人も多数あったとの事。これは ころ、元旦には中国地方からの参 宥恕下さいませ。 出状するのも無験でありますが御 今回の宗像を拝見致しましたと

的の白眉になられる事は火を見る っていますが、完成の時には全国 より明らかであります(以下略) 計画で大復興が挙行される事にな 起で巨額の浄財を投じて、五カ年

福岡 日吉覚

様、何卒御笑殺を願います

つき申さず只々目睹の外無き有

えざる急坂転落の速度には及びも ありまするが、此末世の道義を井 して、当事者に注意を促した事も

拝啓先文御免下さいませ。<br />
突然 | みまするに、<br />
古来の道義は、<br />
愈々 議 漸次消滅の一途を辿るのみにて、 成、明治時代よりの興亡を辿って (前略) 私も愈々八十二歳と相

宗像町

Щ

下

奉仕の尊台方のみと存じて居りま て、其日其日を送って居ります次 に云ふ神様頼みの外なき事と思ふ 世俗推移にまかせるの外なく俗 にては如何んともなし難く、只々 は言ふものの、一個陋巷の此老骨 只々懸念に絶えざるもの有之、と くては国家滅亡の外なかるべく て止どまる処を知らざる有様、斯 可き青少年の非行は、愈々増属し す次第で御座います。 わけてもの国家将来の中枢となる 第で、只々力に思ふは御神様に御 りしたいと思って居ります。

果して合格できるかどうか、それ 受験しようと決心致しました。 して何とか貴社に合格通知を御送 は分かりませんが、最大の努力を 

乱筆になりましたが御許し下さい

偲ばれてなりません。

尚承りますれば出光さんの御発

時々は紙上の必要力所に朱線加筆 なりまするか、拝読致して居り、 彼の神社新報紙は約二十年間にも

**香椎工業高校卒業生** 山崎清美

責社の身に余る御慈愛に励まされ 解の賜物と痛感致して居ります。 福は貴社の教育に対する厚い御理 報告申し上げます。僕の今日の奉 場管理課に赴任致しましたので御 **幡区黒崎、安川電気製作所八幡工** て僕は国立九州工業大学夜間部を 北九州市八